

*Caranx* sp. カイワリ属種不明 (4回出現、7尾)

春期から秋期にかけて出現し、出現盛期は夏期、出現海域は沖縄北西の近海域と東支那海域で東支那海域に多く出現した、出現個体の全長範囲は3.0-12.7mmであった。

*Seriola aureavittata* TEMMINCK et SCHLEGEL ヒラマサ

(6回出現、8尾)

夏期と冬期に出現した。出現個体の全長範囲は5.8-29.2mm。出現地点の表面水温範囲は21.6-29.0°Cで個体数加重平均水温は26.8°Cである。

*Seriola quinqueradiata* TEMMINCK et SCHLEGEL ブリ

(7回出現、8尾)

春期に出現し、出現個体の全長範囲は7.9-21.6mm、出現地点の表面水温範囲は19.0-27.2°Cで個体数加重平均水温はヒラマサに比べて低く22.2°Cである。

*Seriola purpurascens* TEMMINCK et SCHLEGEL カンパチ

(10回出現、16尾)

春期から秋期に出現し、出現盛期は夏期、ブリ属の上記の2種と比較すると、ブリは黒潮主流域から東支那海域で割合低温時の3月頃多く出現し、ヒラマサは沖縄近海域に割合高温時の7月頃多く出現した。カンパチは湾内から近海域にかけて流れ藻と共に出現した。カンパチの出現地点の表面水温の範囲は23.4-29.2°Cで個体数加重平均水温は27.0°Cでヒラマサに比べて若干高温海域に多く出現した。出現個体の全長範囲は5.0-37.6mmである。

*Chorinemus* sp. イチカツオ属種不明 (6回出現、6尾)

夏期から秋期に出現し、出現盛期は秋期、出現海域は沖縄南部海域と北西部海域の近海域、出現個体の全長範囲は7.0-16.1mm。

Carangidae gen. アジ科種不明 (35回出現、57尾)

四季を通して出現し、出現盛期は春期から夏期である。出現海域はすべての海域である。沖縄近海にはアジ科の魚種は30種以上生息しており、それらの稚仔魚が沖縄近海に出現していると思える。ここでアジ科と

してあげた幼稚仔魚も多種多様で多くの種をふくんでいる。

### 36. Leiognathidae

ヒイラギ科 (1回出現、1尾)

*Leiognathidae* gen. sp.

ヒイラギ科種不明

(1回出現、1尾)

1972年7月のO-1に全長3.0mmの仔魚1尾が出現

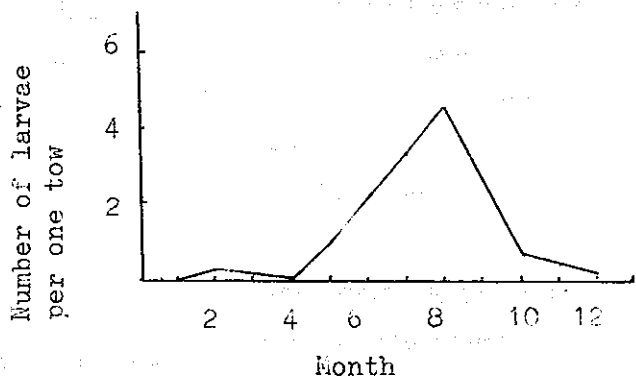


Figure-35 Relationship between month and occurrence of larvae of Mullidae

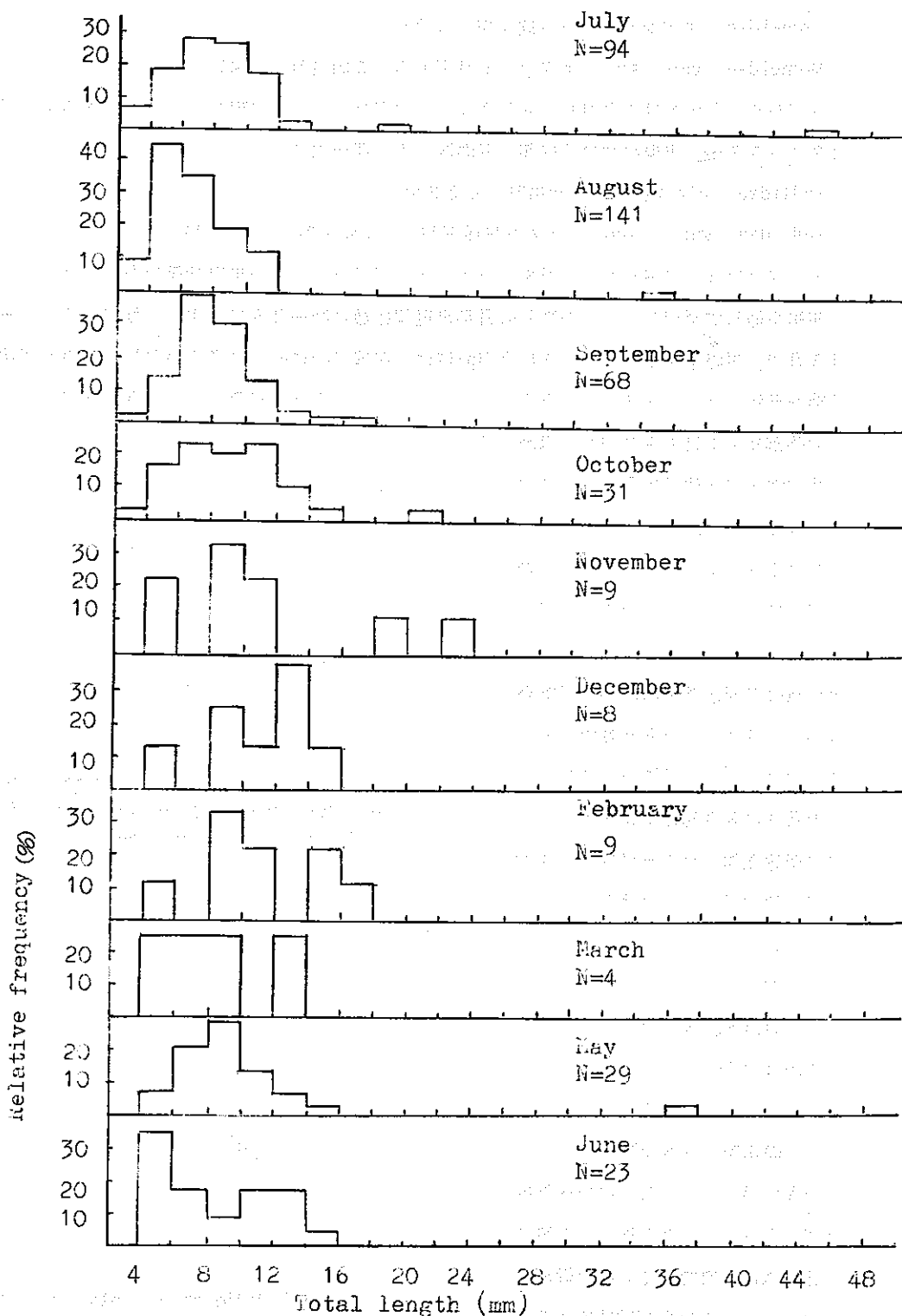


Figure 36 Monthly total length composition of larvae of Mullidae